

(別紙 1)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月12日

【評価実施概要】

事業所番号	2770901342		
法人名	社会福祉法人 恭生会		
事業所名	グループホーム 和朗園		
所在地	大阪府高槻市井尻 2 - 3 7 - 8 (電話)072-660-3600		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成19年8月28日	評価確定日	平成19年11月1日

【情報提供票より】 19年 7月 31日事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 11月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤16人, 非常勤5人, 常勤換算16.4 人	

(2) 建物概要

建物構造	RC 造り
	5階建ての 2~3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	16,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	0 円	昼食	0 円
	夕食	円	おやつ	0 円
	または1日当たり		40,000 円	

(4) 利用者の概要 (月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	8	要介護2	7		
要介護3	3	要介護4	0		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 84.2 歳	最低	74 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	第一東和会病院・今津診療所・中歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地に隣接し田園風景を残す立地条件に恵まれ、総合病院を母体を持ち総合福祉施設の一事業として運営されているグループホームである。施設全体で盛大に行われる年間行事・各種クラブ活動にグループホーム利用者も参加し、大きな楽しみとなり生活を活性化している。その他、運営体制・医療体制・職員の教育体制なども、施設全体の取り組みの中で充実している。また、生活面ではグループホーム独自の細やかな取り組みがあり、外出の機会を数多く持つ・一人ひとりが趣味や活躍の場面を持つなど、利用者が生き生きとした日々が過せるように自立支援が行われている。職員の待遇もよく、利用者は自身のペースで穏やかに過ごされている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) 昨年の外部評価結果をミーティングで検討し、改善計画を立て改善に取り組んだ。運営推進会議でも報告を行い、意見を聴取すると共に、改善計画についての説明を行った。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 今回の外部評価についても、ミーティングで内容・意義などを全職員に説明し、全員で自己評価した後、計画担当責任者・管理者と共に検討し、自己評価表を完成させた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6) 利用者・家族・自治会会長・行政職員を参加メンバーとし、2ヶ月に1回開催されている。会議では、ホームからの報告や行事予定の説明などが行われ、参加メンバーからの意見・要望などを受け付け、情報・意見交換の場として活用されている。昨年の外部評価の結果についても報告と改善策の説明が行われていた。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 意見箱を設置し、家族の来訪時・電話対応時などには、話しやすい雰囲気づくりに配慮し、意見・苦情を引き出す努力をしている。出された意見・苦情については受付表に記載した後、ホームのミーティングで原因・改善策を検討し、施設の委員会でも検討され、結果を家族に説明すると共に、掲示してフィードバックしている。言い出し難い家族からも満遍なく意見・苦情が引き出せるような工夫が望ましい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 自治会に加入し、清掃活動などの地域活動・祭りや学校行事などの地域行事に参加し、ホーム・施設の行事にも招待している。必要時には協賛という形で協力するなど、地域の一員として地域交流に積極的に取り組んでいる。

2. 第三者評価結果票

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「愛と和の精神」「利用者の人権尊重」「地域との信頼関係」を明示した、明瞭で理解しやすい理念がつけられている。ただ、「施設全体の理念」であり「グループホーム独自の理念」としての「家庭的な環境の下」という内容が含まれていない。		施設の理念と共に、グループホームの基本方針である「家庭的な環境の下」という内容を盛り込んでいくことが望まれる。
		理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内各所に「理念」が掲示されており、ミーティングの際唱和し周知を図っている。職員の採用時にはオリエンテーションで必ず「理念」を説明し、また、全体会議で話し合う機会を設け、理解を深めるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、清掃活動などの地域活動・祭りや学校行事などの地域行事に参加し、ホーム・施設の行事にも招待している。必要時には協賛という形で協力するなど、地域の一員として地域交流に積極的に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>昨年は、外部評価結果に基づき改善に取り組んだ。今回の外部評価についても、ミーティングで内容・意義などを全職員に説明し、全員で自己評価した後、計画担当責任者・管理者と共に検討し、自己評価表を完成させた。</p>		
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用者・家族・自治会会長・行政職員を参加メンバーとし、2ヶ月に1回開催されている。会議では、ホームからの報告や行事予定の説明などが行われ、参加メンバーからの意見・要望などを受け付け、情報・意見交換の場として活用されている。昨年の外部評価の結果についても報告と改善策の説明が行われていた。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>定期的に市の介護相談員が訪問し、視察や聴取の後、助言を受けたり意見交換を行っている。計画作成責任者が市の担当者を頻繁に訪れ、積極的に情報交換を行い、協働の関係づくりに取り組んでいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪時に近況を報告し、心身の状態の変化や計画変更の必要性などについて必要に応じてきめ細かく話し合われている。お小遣いの出納についても、来訪時に報告されている。体調の変化など、必要時には電話や文書で迅速に報告している。また、毎月、ホーム独自の広報誌「ひととき」を発行し、ホームの行事や日常生活を写真と文章で伝えているが、定期的な個別の報告はなされていない。</p>		<p>月刊の広報誌「ひととき」郵送時に、担当スタッフによるお便りを個別に同封するなど、変化や問題がなくても利用者一人ひとりの暮らしの様子を定期的に家族に伝える取り組みを期待する。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置し、家族の来訪時・電話対応時などには、話しやすい雰囲気づくりに配慮し、意見・苦情を引き出す努力をしている。出された意見・苦情については受付表に記載した後、ホームのミーティングで原因・改善策を検討し、施設の委員会でも検討され、結果を家族に説明すると共に、掲示してフィードバックしている。言い出し難い家族からも満遍なく意見・苦情が引き出せるような工夫が望ましい。</p>		<p>家族は意見や不満が言い出し難いということを理解し、定期的にアンケートを実施するなど、広く満遍なく意見・苦情・要望・満足度が把握できる取り組みに期待する。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動による利用者のダメージを防ぐため、行事・クラブ活動などの際、施設職員全体がホームの利用者と交流することにより、日ごろから馴染みの関係ができるように配慮している。入職・移動の際には、月間広報誌「ひととき」で写真入りで自己紹介し、利用者一人ひとりについての申し送りを徹底させ、円滑に移行できるように取組んでいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設全体の教育委員会が年間計画を立てて実施している毎月の内部研修に、ホームの職員も参加している。外部研修については、案内を掲示し参加を促している。施設の全体会議の後、外部研修参加者による伝達研修が行われている。入職者については、オリエンテーションを行った後、ユニットの責任者が個別に実地指導をしている。職員全員に対して、一律の計画的な研修は実施されているが、併せて、各職員の習熟度に応じて個別の研修が計画的に行われることが望まれる。		各職員の職種・経験・習熟度に合わせて、個別の研修計画を立て、職員のモチベーションを高め、段階的な向上を図ることが望まれる。また、施設全体の研修に併せて、ホーム独自の勉強会も企画中であるため、早期の開始が期待される。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内に連絡会やネットワークは作られていない。研修会などで同業者との交流を図り、相互のグループホームの見学や意見交換の機会を設けている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申し込みから利用開始まで、利用者や家族と定期的に連絡をとり、近況を把握したり、グループホームの現状を報告したりしている。施設内のデイサービス利用や行事への参加を通して、施設や職員と馴染みの関係を作り、安心して利用開始ができるように配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>調理・掃除・洗濯など日常の家事・菜園での野菜作りなど、利用者と職員が協働することにより、利用者が得意分野で力を発揮し、職員が教わることも多い。日常的な散歩・買い物・行事での外出・レクリエーションなど、利用者と職員が数多くの体験を共有できるように取り組んでいる。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入所時に、センター方式のアセスメント表に沿って利用者と家族から詳細に情報収集し、一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。入所後も、日々の暮らしの中から汲み取れる希望や意向は、アセスメント表に追加して記載し、職員に申し送ることにより、共有しサービス提供に活かしている。</p>		
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画作成の際は、利用者・家族・計画作成責任者・介護職員が、サービス担当者会議で意見を出し合い、利用者がその人らしい生活が継続できるような個別性のある計画が作成できるように努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>担当の介護職員と計画作成責任者が話し合いを持ち、安定している場合は介護計画の期間内で定期的に見直しをしている。又、利用者の状況に応じて随時、検討見直しがされている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人、家族の状況に応じて、通院送迎などの支援を行っている。希望に応じて個別の外出支援も行っている。</p>		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>事業所の協力医療機関が多くあり、皮膚科は第2,4木曜、歯科、内科は随時往診があり、医療体制は充実している。かかりつけ医の継続については、本人、家族が選択できるようになっている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>事業所としては、「グループホームの利用者は共同生活が可能、ある程度自立した身体状態である事」という考えのもと、重度化や終末期をむかえた利用者には次の移行先を紹介するなど安心してサービスが利用できるように支援している。利用者・家族には利用前に説明し、了承を得ている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉かけや行動はさりげなく、利用者の人格や羞恥心などに配慮した対応が見られる。又、個人情報の取り扱いについては、研修を行い周知を図り、誓約書を交付している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活リズムを習慣づけるための日課スケジュールはあるが、利用者一人一人の希望を把握し、日曜大工に参加するなどその日の好きな過ごし方ができるように支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同一法人の管理栄養士による献立表に基づいて各フロアで調理を行っているが、その日の利用者の希望で調理方法を変えたり、畑で収穫した野菜を入れるなどの工夫をしている。又、月1回のお誕生会は、希望のメニューを聞き一緒に調理し手作りケーキを作るなど楽しみとなっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	回数や時間などは、一応取り決めているが、常に利用者の希望を聞く体制をとり、特に皮膚疾患のある人には配慮している。入浴を楽しめるように、ゆず湯や菖蒲湯など季節を感じられる工夫をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干しや洗濯たたみ、畑の野菜や花の水やり、ラジオ体操の音頭とりなど、利用者一人一人の能力に応じた役割分担を決めて、本人が進んで楽しみながらできるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	全員が満遍なく外出できるように、1日に2～3人ずつ外出日を決めて声かけし外出支援している。外食をしたり、買い物に行くなど、一人ひとりのその日の希望に応じられるように工夫している。又、1日1回は外気に触れるように、畑に行ったりベランダに出て花に水をやるなど、積極的に戸外に出ている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室の窓は鍵をかけないようにしている。自動ドアは、タッチ式で開き、透明のドアのため閉塞感は感じられず、いつでも外に出られるように配慮している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、5月と11月に施設全体で利用者も参加して夜間を想定した訓練を実施している。地域の消防団への加入も働きかけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一週を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>職員は、食事ごとに摂取量を確認、チェック表に記録し、情報を共有している。水分は利用者が使用するコップ1杯の量を150mlとして毎食とおやつ2回を基準にしておおよその量を把握しているが、記載はされていない。</p>		<p>飲水量についても1日量をチェック表に記録することで、日頃の状態把握や体調不良の際の目安にすることが望ましい。</p>
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>フロア全体の換気に気配りがなされ自然な香りで清潔感があふれている。居間には、壁画や壁飾りなどが季節に合わせて飾られている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>畳・フローリングの選択もでき、使い慣れたたんす・座卓・鏡台などが持ち込まれ、利用者の以前の生活を思い起こせるような居室となり、居心地よく安心した生活が送れている。</p>		

 は、重点項目。